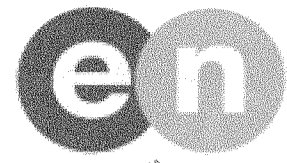


神戸大学ニューズネット

NEWS NET

©神戸大学ニューズネット委員会 http://www.kobe-u.com/newsnet/
関西学生報道連絡共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島3-21-9-502
電話06-6307-1315 F A X 06-6307-1316 メールnewsnet@kobe-u.com



[en]学生の就職情報

1月号

今月の主な内容

- 2～5・10面：震災特集
- 8・9面：野球ドラフト総合スポーツ

学長選考 野上現学長が再任

選考方法に疑問の声も 開かれた学長選へ課題残る

神戸大は昨年11月11日、独立行政法人化後の初の学長選考で野上現学長を再任した。任期は今年2月16日から09年3月まで。再任後、野上学長は「みなで未来の可能性を導きたい。我々の可能性を育み、協力して実現し神戸大の名の下に展開したい。神戸大といふことに誇りを持つことができるよう学長として頑張りたい」と抱負を話した。今回の学長選考は3つの改善がなされ前回とは異なる選挙となった。1つ目は学外からも候補者を出せるしくみになったこと。2つ目は初の所信表明。10月25日に行われ、神戸大はメディアに野上、五百旗頭両候補の「所信表明」を公開した。3つ目は(課長補佐以上の)事務職員も投票できることになった。



再任された野上現学長がニューズネットの単独取材に応じた(11月16日・神戸大本部で撮影)小林沙由香

新しい学長選考の仕組みは、「候補者が多くの可能性を持ち、選考側も選考肢が広がるよかったです」と評価される一方で、当初から数字で表される「意向投票」とは別に行われる「学長選考」として行われる。

約800人が最後の別れ 西塚前学長を偲ぶ会

故西塚泰美前神戸大学学長を偲ぶ会が昨年12月19日、ポートピアホテルで行われ、約800人が弔問に訪れた。来賓による弔辞や献花が行われた。

黙祷の後、野上現神戸大学学長が「先生が愛され、ここまで育ててくれた神戸大を、世界に誇る学術教育の拠点として発展させていくことを誓います」と告別の辞を述べた。

西塚前学長は、11月3日、くも膜下出血で突然意識を失い、翌4日の午前1時28分、後輩の医師らの懸命な治療のいかにもなく、



遺影の前で告別の辞を述べる野上神戸大学学長(12月19日・ポートピアホテルで撮影)須田勉太郎

神戸市中央区の兵庫県立災害医療センターで亡くなった。72歳だった。

前学長は、生化学の分野で多大な業績を残した。細胞の情報伝達に欠かせない「タンパク質リン酸化酵素(プロテインキナーゼC)」を発見し、1986年に日本学士院賞などを受賞。88年に文化勲章を受章した。以降、研究者からの論文の引用件数が、世界でもトップクラスに。最近では、毎年、ノーベル賞の候補者として名前があがっていた。

門下生代表の高井義美阪

男子ラグロス 新人戦で準優勝

来季のリーグ戦へ期待生む

関西学生ラグロス新人戦の決勝が12月23日、舞洲運動広場で行われ、神戸大は京産大、京大を下すも同志社に敗れ、準優勝となった。

第1試合の京産大戦を6-5で制した神戸大は、



その勢いで第2試合の京大戦へ。一時は2点差でリードを許す。しかし後半6分にこぼれ球をMT大島が拾ってシュートし得点。さらに後半にはAT中島が、8分には混戦から飛び出したAT中島が得点し、4-0とする。この後は神戸大が堅い守備で1点を守りきり、見事な逆転勝利を見せた。

院生暴行死事件の民事判決 県警のミス認める

地裁が損害賠償支払い命じる

旧神戸商船大(現神戸大)の拉致・暴行死事件で、兵庫県警の捜査が適切に行われていなかったと認められ、地裁が損害賠償を支払うよう命じた。

神戸地裁は県警の捜査ミスと浦中さんの死亡との因果関係を認め約9700万円の支払いを命じた。

判決理由で村岡審判長は「警察官の対応は著しく不適切、不合理で違法性を帯びる」と捜査ミスを厳しく非難。「警察官は浦中さんが暴行を受け死するところを十分予見することができた。ミスがなければ救出できた」と述べた。

退院時、支援者からの労いに笑顔で応じていた浦中さんの母親はその後の会見で「判決の内容を聞いてびっくりした。裁判所は事実を正しく認めた。裁判所は母親の落ち度が無かった」と述べた。

約1億3700万円の損害賠償を求めた訴訟の判決が12月22日、言い渡された。神戸地裁は県警の捜査ミスと浦中さんの死亡との因果関係を認め約9700万円の支払いを命じた。

判決理由で村岡審判長は「警察官の対応は著しく不適切、不合理で違法性を帯びる」と捜査ミスを厳しく非難。「警察官は浦中さんが暴行を受け死するところを十分予見することができた。ミスがなければ救出できた」と述べた。

退院時、支援者からの労いに笑顔で応じていた浦中さんの母親はその後の会見で「判決の内容を聞いてびっくりした。裁判所は事実を正しく認めた。裁判所は母親の落ち度が無かった」と述べた。

学生とのつながり強く 凌霜会が六甲台に移転

社会科学系の学部や大学院の同窓会「凌霜会」の事務局が、12月25日、中央区海岸通から神戸大六甲台キャンパスにある三木記念館へ移転した。27日から新事務所での事務を開始し、

事務局長がキャンパス内に移転することで、大学や学生とのつながりが強くなることを期待される。

新住所は、〒657-18501神戸市灘区六甲台町2-1 神戸

旧三商大戦 23連覇達成

昨年6月から始まった第44回三商大戦(旧三商大戦)の閉会式が12月9日、大阪市大で行われた。23種目中12種目で優勝、全種目で5位以上の成績を修めた神戸大が93点を獲得し、見事23連覇を達成した。2位は一橋大(61点)、3位が大阪市立大(53点)となった。

特集 震災から10年

5面へ

大学三木記念館内。電話番号は078-8051-8503、38334、FAX番号は078-8051-3837。

凌霜会の棟樑事務局(61年経営)は「これからは大学や学生とのつながりを強くするために、場所が近い方が便利

就活応援 朝日新聞

大学生に朝日新聞の就職応援サイト「クラブ・ゼスト」

club Zest

朝日新聞を購読するだけで入会できる。(会費無料)大学生購読者限定の就職に役立つWebサイト&ポイントサービスです。

http://www.asa-takaha.com

お申し込みは **ASA 高羽**

☎ 0120-084013

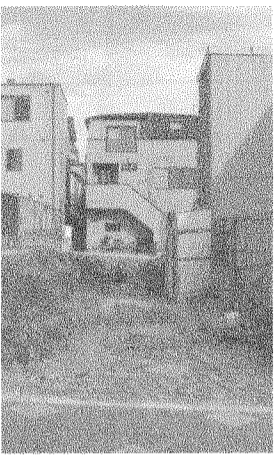
神戸市灘区土山町1-13

だと思えます。学生準会員向けにメルマガの発行も始まり、お互い交流をもちたいです」と話した。凌霜会のメルマガには、ニューズネットも情報提供で協力している。詳しくは http://home.kobe-u.com/yoso/index.html

【田中義久】

【武井礼美】

変わりゆくまちで



雑草が繁る旧道が当時の面影を残す。この道の先に西尾荘があった

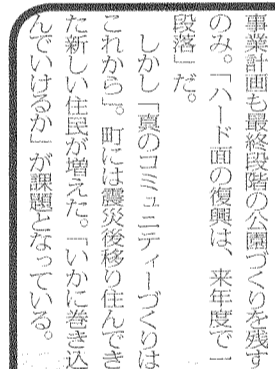
区画整理、マンション建設、新築住宅

▽西尾荘(灘区六甲町) JR六甲道駅から北へ5分。商店街から路地に入る。区画整理の終わった真新しい住宅地になっている。中村公治さん(神戸大・営・3年)と坂本竜一さん(工・3年)と鈴木伸弘さん(工・3年)が住んでいる。

▽安田文化(灘区六甲町) 区画整理で個人宅になった西尾荘跡と違い、区画全体がマンションとなった場所もある。櫻井英二さん(神戸大・法・4年)が住んでいる。隣には新設された幅員17メートルの安田文化跡。櫻井さん(理・2年)が被災した大日荘もその一つ。以前、桜ヶ丘の自治会長をしていた大谷さんによると「大日荘の土地と通路の土地の持ち主が違っていたから土地の売却に時間がかかった」が、

生が助け出さずとしたという。しかし、近所から出た火が強風に煽られ西尾荘も延焼。近所の敷田洋子さん(理・3年)は「見殺しや、辛かったろう。かわいそう」と当時の様子を話してくれた。区画整理が始まるまで、跡地に敷田さんらが仮住まいアパートを建設。その一角に敷田さんは、毎日朝晩お茶とお花を供えていた。遺族も訪れていたというが今はない。敷田さんはわずかに残る旧道からこの延長線上にあったと

△阪神アパート(東灘区) 現海軍科学部から国道42号線沿いに西へ15分。神田徹さん(商船システム学・院1年)の亡くなった阪神アパートがあった。近くの住民によると階が1階になって全壊したという。跡地には8階建てのマンション「PARBOUR(パレブール)」が建っている。



西尾荘があったと思われる場所

△大日荘(灘区桜ヶ丘) 区画整理が行われなかった地域では敷地の切り売り、個人宅になる場合が多い。地権の問題で再建が遅れる場合もある。篠塚真さん(理・2年)が被災した大日荘もその一つ。以前、桜ヶ丘の自治会長をしていた大谷さんによると「大日荘の土地と通路の土地の持ち主が違っていたから土地の売却に時間がかかった」が、

△清和荘(西宮市高木西町) 阪急西宮北口駅から徒歩5分ほどのところにある木造2階建ての清和荘では、扇あきさん(関学・文・1年)が住んでいた。現在、清和荘があった場所には、97年当時から大家さんの自宅が建っている。区画整理で番地が変わり、震災当時は1番地だったのが現在は同じ場所でも14番地になっていた。家主の奥村トシエさんに「清和荘を再開しないのか」と尋ねると、指でばつてんを作り「もう、バツですわね」と、硬い表情を見せた。

「ハード面は一段落」

六甲道駅北地区の場合

六甲道駅北地区。震災後、住民らが避難所に散らばり、方々の仮設に入る中、市は次々と都市計画を決定。住民不在の行政に対し「自分たちの手でまちづくり」との思いから地区内の8つのまちづくり協議会が一体となった。その連絡協議会・代表の敷田一彦さんによると「当初は住民間の意見がまとまらず、「どうなることか」と思っていた。10年経ち、事業計画も最終段階の公園づくりを残すのみ。「ハード面の復興は、来年度で一段落」だ。

しかし「真のコミュニティづくりはこれから」。町には震災後移り住んできた新しい住民が増えた。「いかに巻き込んでいけるか」が課題となっている。

▽奥井荘(西宮市上原) 奥井荘では三木章裕さん(関学・文・2年)と和田学さん(文・4年)が住んでいた。跡地には、住宅2棟が建ち並ぶ。「00年まで下宿の防災には気を使い、入居者には被災時のために補償金を積み立てている。当時を知る八尋民子さん(理・3年)は「崩れた建物から助け出して声がかんなくて、思い出しても、涙が出てきちゃう」と言葉をつまらせた。

▽甲山荘(宝塚市仁川北) 阪急仁川駅付近の住宅街の一角に甲山荘はあった。亡くなった敷内康行さん(法・4年)は「この住人だ」と。現在、鉄筋3階建ての「坂本マンション」が建っており、家主は「学生さんが入居しています」と話。周囲には新築の家が立ち並び、震災の面影は跡形も無い。奥田さん(理・2年)は「震災の日が近づいてきて、若葉荘の家主さんと話して、安全なところと息子を言われて、笑顔を見せる。話したりして、奥田さん(理・2年)は少し寂しかった。

△門前文化(西宮市門前町) 木造2階建て・36棟からなる門前文化は、阪急門戸神前駅から東に歩いて約10分のところにある。伊藤晶宏さん(関学・文・3年)は犠牲者4人のうちの一人。現在、門前文化の跡地では、広い駐車場が新築の建物を取り囲む。大阪建設の社員は「一部が駐車場、他が建売住宅になっています」と話。オレンジ色やクリーム色の新築の家に囲まれた駐車場はがらんとしていて、どこか震災の面影を思い出させるものがあった。

△奥井荘(西宮市上原) 奥井荘では三木章裕さん(関学・文・2年)と和田学さん(文・4年)が住んでいた。跡地には、住宅2棟が建ち並ぶ。「00年まで下宿の防災には気を使い、入居者には被災時のために補償金を積み立てている。当時を知る八尋民子さん(理・3年)は「崩れた建物から助け出して声がかんなくて、思い出しても、涙が出てきちゃう」と言葉をつまらせた。

▽奥田荘(西宮市上原) 「1月17日の朝は毎年下宿跡にコーヒーやお茶を持って行ってましたよ」。15人の下宿生のうち、西部直行さん(関学・法・4年)と高木公志さん(文・1年)の2人が住んでいた奥田荘。家主の奥田愛子さんはそう語る。奥田荘跡は99年から駐車場となっていて、その横には新たにマンションが建てられた。奥田さんはマンションについて「今年4月の入学に間に合うように建てました。鉄筋の方が台風にも強いし、安全なところと息子を言われて、笑顔を見せる。話したりして、奥田さん(理・2年)は少し寂しかった。

△門前文化(西宮市門前町) 木造2階建て・36棟からなる門前文化は、阪急門戸神前駅から東に歩いて約10分のところにある。伊藤晶宏さん(関学・文・3年)は犠牲者4人のうちの一人。現在、門前文化の跡地では、広い駐車場が新築の建物を取り囲む。大阪建設の社員は「一部が駐車場、他が建売住宅になっています」と話。オレンジ色やクリーム色の新築の家に囲まれた駐車場はがらんとしていて、どこか震災の面影を思い出させるものがあった。

▽甲山荘(宝塚市仁川北) 阪急仁川駅付近の住宅街の一角に甲山荘はあった。亡くなった敷内康行さん(法・4年)は「この住人だ」と。現在、鉄筋3階建ての「坂本マンション」が建っており、家主は「学生さんが入居しています」と話。周囲には新築の家が立ち並び、震災の面影は跡形も無い。奥田さん(理・2年)は「震災の日が近づいてきて、若葉荘の家主さんと話して、安全なところと息子を言われて、笑顔を見せる。話したりして、奥田さん(理・2年)は少し寂しかった。

△門前文化(西宮市門前町) 木造2階建て・36棟からなる門前文化は、阪急門戸神前駅から東に歩いて約10分のところにある。伊藤晶宏さん(関学・文・3年)は犠牲者4人のうちの一人。現在、門前文化の跡地では、広い駐車場が新築の建物を取り囲む。大阪建設の社員は「一部が駐車場、他が建売住宅になっています」と話。オレンジ色やクリーム色の新築の家に囲まれた駐車場はがらんとしていて、どこか震災の面影を思い出させるものがあった。

△ゆかた荘(東灘区) 春藤隆隆さん(機関学・3年)が住んでいたゆかた荘。阪神電車の線路沿いのゆかたハイツが南北2棟建つ。ゆかたハイツは震災後の97年に建て替えられたという。部屋は8戸あるが、今のところ学生は住んでいない。

△すみれ荘(東灘区) 東灘小学校の近くにあったすみれ荘。山内傑登さん(機関学・4年)の亡くなった。現在は東隣のすみれ荘跡地と併せて高齢者向けの賃貸マンション「サンクチュアリ深江北町」となっている。6階建てで定礎は97年7月。近くに住む男性によると、すみれ荘とすみれ荘は木造2階建てで歩道にはみ出るように階が1階を押しつぶしたという。山内さんはなかなか見つからず、3日目にようやく掘り出された。山内さんの他にも高齢者が数人住んでいた。「悲惨だった」と男性。

△伸青苑(東灘区) 魚崎北町商店街の南端に太谷孝博さん(航海学コース・3年)の亡くなった伸青苑があった。現在は「甲南フラット」に建て替わっている。魚崎北町商店街も震災後に建て替えられた店舗が軒を連ねる。この区画は、また駐車場や未整備の土地が多い。

△良光ハウス(中央区) 中山手通3丁目の入り組んだ路地の一角にマスクリ・マシットさん(機関システム工学・アルジェリア人留学生)の被災した良光ハウスがあった。現在は、3階建てのK・Mコートになっている。近くには神戸モスクもあり、外国人が多く住む。

△いこい荘(西宮市津川町) 阪神・阪急今津駅から歩いて5分のいこい荘では、1階に住んでいた松本美穂さん(関学・法・2年)が住んでいた。跡地には、現在4階建てマンション「ロイヤルフォート今津」が建つ。ほの暗い路地には清和荘を再開しないのかと尋ねると、指でばつてんを作り「もう、バツですわね」と、硬い表情を見せた。

△奥田荘(西宮市上原) 「1月17日の朝は毎年下宿跡にコーヒーやお茶を持って行ってましたよ」。15人の下宿生のうち、西部直行さん(関学・法・4年)と高木公志さん(文・1年)の2人が住んでいた奥田荘。家主の奥田愛子さんはそう語る。奥田荘跡は99年から駐車場となっていて、その横には新たにマンションが建てられた。奥田さんはマンションについて「今年4月の入学に間に合うように建てました。鉄筋の方が台風にも強いし、安全なところと息子を言われて、笑顔を見せる。話したりして、奥田さん(理・2年)は少し寂しかった。

△門前文化(西宮市門前町) 木造2階建て・36棟からなる門前文化は、阪急門戸神前駅から東に歩いて約10分のところにある。伊藤晶宏さん(関学・文・3年)は犠牲者4人のうちの一人。現在、門前文化の跡地では、広い駐車場が新築の建物を取り囲む。大阪建設の社員は「一部が駐車場、他が建売住宅になっています」と話。オレンジ色やクリーム色の新築の家に囲まれた駐車場はがらんとしていて、どこか震災の面影を思い出させるものがあった。

▽甲山荘(宝塚市仁川北) 阪急仁川駅付近の住宅街の一角に甲山荘はあった。亡くなった敷内康行さん(法・4年)は「この住人だ」と。現在、鉄筋3階建ての「坂本マンション」が建っており、家主は「学生さんが入居しています」と話。周囲には新築の家が立ち並び、震災の面影は跡形も無い。奥田さん(理・2年)は「震災の日が近づいてきて、若葉荘の家主さんと話して、安全なところと息子を言われて、笑顔を見せる。話したりして、奥田さん(理・2年)は少し寂しかった。



区画整理で建設された愛国住宅(左)と整備された道路。歩道にはせせらぎがある

△ゆかた荘(東灘区) 春藤隆隆さん(機関学・3年)が住んでいたゆかた荘。阪神電車の線路沿いのゆかたハイツが南北2棟建つ。ゆかたハイツは震災後の97年に建て替えられたという。部屋は8戸あるが、今のところ学生は住んでいない。

△すみれ荘(東灘区) 東灘小学校の近くにあったすみれ荘。山内傑登さん(機関学・4年)の亡くなった。現在は東隣のすみれ荘跡地と併せて高齢者向けの賃貸マンション「サンクチュアリ深江北町」となっている。6階建てで定礎は97年7月。近くに住む男性によると、すみれ荘とすみれ荘は木造2階建てで歩道にはみ出るように階が1階を押しつぶしたという。山内さんはなかなか見つからず、3日目にようやく掘り出された。山内さんの他にも高齢者が数人住んでいた。「悲惨だった」と男性。

△伸青苑(東灘区) 魚崎北町商店街の南端に太谷孝博さん(航海学コース・3年)の亡くなった伸青苑があった。現在は「甲南フラット」に建て替わっている。魚崎北町商店街も震災後に建て替えられた店舗が軒を連ねる。この区画は、また駐車場や未整備の土地が多い。

△良光ハウス(中央区) 中山手通3丁目の入り組んだ路地の一角にマスクリ・マシットさん(機関システム工学・アルジェリア人留学生)の被災した良光ハウスがあった。現在は、3階建てのK・Mコートになっている。近くには神戸モスクもあり、外国人が多く住む。

△いこい荘(西宮市津川町) 阪神・阪急今津駅から歩いて5分のいこい荘では、1階に住んでいた松本美穂さん(関学・法・2年)が住んでいた。跡地には、現在4階建てマンション「ロイヤルフォート今津」が建つ。ほの暗い路地には清和荘を再開しないのかと尋ねると、指でばつてんを作り「もう、バツですわね」と、硬い表情を見せた。

△奥田荘(西宮市上原) 「1月17日の朝は毎年下宿跡にコーヒーやお茶を持って行ってましたよ」。15人の下宿生のうち、西部直行さん(関学・法・4年)と高木公志さん(文・1年)の2人が住んでいた奥田荘。家主の奥田愛子さんはそう語る。奥田荘跡は99年から駐車場となっていて、その横には新たにマンションが建てられた。奥田さんはマンションについて「今年4月の入学に間に合うように建てました。鉄筋の方が台風にも強いし、安全なところと息子を言われて、笑顔を見せる。話したりして、奥田さん(理・2年)は少し寂しかった。

△門前文化(西宮市門前町) 木造2階建て・36棟からなる門前文化は、阪急門戸神前駅から東に歩いて約10分のところにある。伊藤晶宏さん(関学・文・3年)は犠牲者4人のうちの一人。現在、門前文化の跡地では、広い駐車場が新築の建物を取り囲む。大阪建設の社員は「一部が駐車場、他が建売住宅になっています」と話。オレンジ色やクリーム色の新築の家に囲まれた駐車場はがらんとしていて、どこか震災の面影を思い出させるものがあった。

「下宿生居らんなあ」

旧神船大(神戸大海事科学部)の被災下宿

被災下宿(亡くなった人)	住所	現状
38. ゆかた荘(1)	神戸市東灘区深江北町 1-12-17	一般アパート
39. 阪神アパート(1)	神戸市東灘区青木 2-16-17	一般マンション
40. すみれ荘(1)	神戸市東灘区深江北町 3-5-27	一般マンション
41. 伸青苑(1)	神戸市東灘区魚崎北町 6-1-19	一般マンション
42. 良光ハウス(1)	神戸市中央区中山手通 3-14-12	一般マンション

※04年11・12月に調査。UNN調べ。関学・神戸大→【3面】

03年神戸大に統合された海軍科学部となった旧神船大。5人の学生がなくなり、すべて下宿生だった。5人が住んでいた下宿はほとんど木造2階建ての文化住宅。すべての跡地にはマンションが建っていた。家族向けが多く、「学生さん見んなあ」と近所の住民。地元不動産屋によると「震災後、不況の影響もあって下宿する学生はめっきり減った」という。

「昔はつながりがあったのになあ」と往事を懐かしむ声もあった。

△ゆかた荘(東灘区) 春藤隆隆さん(機関学・3年)が住んでいたゆかた荘。阪神電車の線路沿いのゆかたハイツが南北2棟建つ。ゆかたハイツは震災後の97年に建て替えられたという。部屋は8戸あるが、今のところ学生は住んでいない。

△すみれ荘(東灘区) 東灘小学校の近くにあったすみれ荘。山内傑登さん(機関学・4年)の亡くなった。現在は東隣のすみれ荘跡地と併せて高齢者向けの賃貸マンション「サンクチュアリ深江北町」となっている。6階建てで定礎は97年7月。近くに住む男性によると、すみれ荘とすみれ荘は木造2階建てで歩道にはみ出るように階が1階を押しつぶしたという。山内さんはなかなか見つからず、3日目にようやく掘り出された。山内さんの他にも高齢者が数人住んでいた。「悲惨だった」と男性。

△伸青苑(東灘区) 魚崎北町商店街の南端に太谷孝博さん(航海学コース・3年)の亡くなった伸青苑があった。現在は「甲南フラット」に建て替わっている。魚崎北町商店街も震災後に建て替えられた店舗が軒を連ねる。この区画は、また駐車場や未整備の土地が多い。

△良光ハウス(中央区) 中山手通3丁目の入り組んだ路地の一角にマスクリ・マシットさん(機関システム工学・アルジェリア人留学生)の被災した良光ハウスがあった。現在は、3階建てのK・Mコートになっている。近くには神戸モスクもあり、外国人が多く住む。

「思い出しても、涙が」

関学周辺では、9か所の下宿が倒壊。下宿していた関学生14人が亡くなった。現在、下宿のあった場所は駐車場や新築アパートに様変わりしている。震災の面影はないが、近隣の住民や大家さんの心の中には、今も当時の惨状と亡くなった学生の記憶が残る。同じ場所ではないが、防災に力を入れ、新たに下宿を始める人も。

△奥田荘(西宮市上原) 「1月17日の朝は毎年下宿跡にコーヒーやお茶を持って行ってましたよ」。15人の下宿生のうち、西部直行さん(関学・法・4年)と高木公志さん(文・1年)の2人が住んでいた奥田荘。家主の奥田愛子さんはそう語る。奥田荘跡は99年から駐車場となっていて、その横には新たにマンションが建てられた。奥田さんはマンションについて「今年4月の入学に間に合うように建てました。鉄筋の方が台風にも強いし、安全なところと息子を言われて、笑顔を見せる。話したりして、奥田さん(理・2年)は少し寂しかった。

△門前文化(西宮市門前町) 木造2階建て・36棟からなる門前文化は、阪急門戸神前駅から東に歩いて約10分のところにある。伊藤晶宏さん(関学・文・3年)は犠牲者4人のうちの一人。現在、門前文化の跡地では、広い駐車場が新築の建物を取り囲む。大阪建設の社員は「一部が駐車場、他が建売住宅になっています」と話。オレンジ色やクリーム色の新築の家に囲まれた駐車場はがらんとしていて、どこか震災の面影を思い出させるものがあった。

10年目の被災下宿

震災特集 跡地を再訪 97年と比較 下宿再開は3軒のみ

6000人以上の命を奪った阪神・淡路大震災。大学生の犠牲者は自宅生も含め、31大学11人に上る。あれから10年、若くして命を断たれた彼らが生きた大学では学生も入れ代わり、震災の風化は止まらない。では彼らが住んだ場所は、下宿はどうなったのだろうか。97年時点で4割の跡地が更地のままだった。今回、取材班は神戸大生、関学学生がなくなった下宿跡37か所を再訪。加えて神戸大に統合された旧神船大生の下宿跡5か所も新たに取材した。結果、更地は1か所を除き、消滅。ほとんどが区画整理などで他人の住宅、マンション、駐車場として下宿が変わっていた。そんな被災下宿の10年をまとめた。【震災取材班】

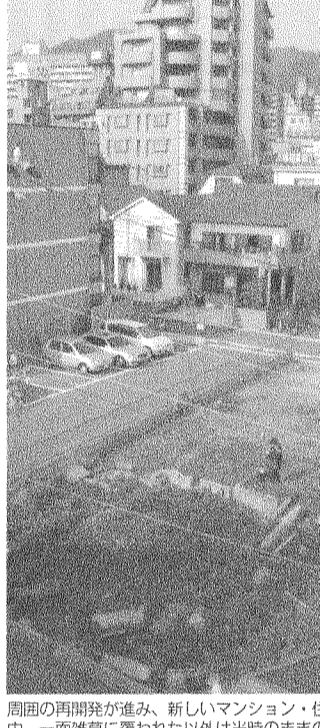
亡くなった大学生のうち、神戸大が39人で最も多かったのが11か所。関学学生は15人。旧神船大生は5人となっている。特に西宮市の関学周辺、神戸市灘区の六甲周辺、東灘区本山周辺の木造文化住宅に被害が集中。住宅の2階部分が1階を押しつぶした。そのため1階に居た人が犠牲になった。惨事から2年後、97年時の下宿跡はまた4割が更地。不況、区画整理、そして忘れられない心の傷。様々な要因で復興はなかなか進んでいなかった。10年後の現在、当時のままの更地は1か所になった。主に家族向けのマンションとなったのが16か

神戸大

神戸大(海軍科学部含まず)の被災下宿跡は28か所。JR六甲道駅を中心に阪急より南、阪神より北に集中している。跡地の現状は区画整理の地区に含まれるかどうかで違いがある。区画整理のあった地域は複数の住宅やマンションとなり、地番も変わり当時の面影を探るのは困難になっていた。一方、それ以外の地域は

まちに残った更地：岩田文化

JR六甲道駅から徒歩5分。真新しい住宅が立ち並び、一角に時間が止まったま歯染原孝さん(理・3年)が庄死した岩田文化の跡地。土台が残り、隅ではバイクが朽ち果てていた。変わったといえ、敷地が雑草に覆われたくらいだ。しかし周囲は確実に変わっていく。隣の敷地で97年は建設中だった住宅も完成。そのせいか更地の

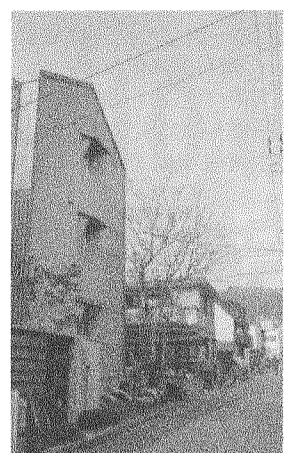


周囲の再開発が進み、新しいマンション・住宅が立ち並び、一面雑草に覆われた以外は当時のままの岩田文化跡

「学生が安心してできる下宿を」

名を変え再開した浜吉文化

灘区中郷町の浜吉文化で、少なかったものの、地震でほとんどは倒壊した。現在は新築の一戸建て住宅やアパートの目立つ住宅街になっている。大家の浜吉弘敏さんは、郷町では火災による被害は



浜吉文化跡に建つ、洒落たデザインの「学生の家らん六甲」(左)

99年2月、耐震性の高い「学生の家らん六甲」というアパートが跡地に建った。学生たちが安心して暮らせる建物をもう一度提供したい、という浜吉さんの願いが実現した。入居者は全て神戸大の学生だ。

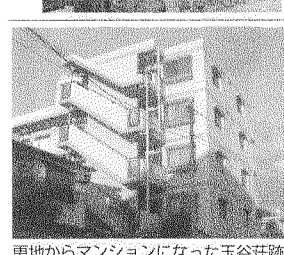


入口の横には地蔵がある盛華園アパート

盛華園アパート(灘区)国道2号線のさらに南、阪神電鉄の高架のほぼ真下に高見秀樹さん(済・3年)が被災した木造2階建ての盛華園があった。震災以降、毎年1月17日の朝には遺族の方が高見さんが所属していた応援団の関係者が隣の「ともだち」に集まり、祈りを捧

現在、97年に建て替えられた同名の4階建てマンションが建つ。当時「私もちも気持ちを切りかえんかね。若い人見るとやっぱいいわよ」と大家の光國美和子さんは話していた。現在のマンションは学生専用ではないが、入居者の多くは神戸大生だ。マンションの一角には地蔵がある。「盛華園がこの地蔵の屋根を支えられて完全に倒れずに済んだように見えた(光國美和子さん)ため感謝の気持ちをこめて一角に設置したという。

生は入らず、1階にある工場の関係の人だけが入居していた。しかし空室になったため、3年ほど前からまた下宿を始めた。現在では神戸大生3人ほどが入居しているという。



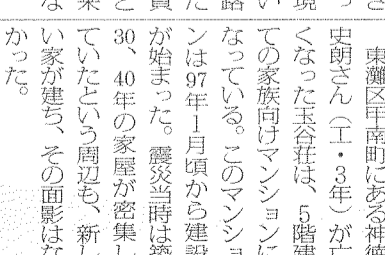
仮設店舗から駐車場になった立花荘跡

立花荘(灘区高徳町)石屋川の近くにある立花荘では稲井健太郎さん(済・4年)が亡くなった。震災後3年ほどは大家だった立花さんの酒屋の仮設店舗だった。今は店を畳み、跡地は駐車場になってい

「もう10年経ったか」と立花さん。「建て替えずに定はない」という。

灘区将軍通の林宏典さん(済・2年)が亡くなった安田文化住宅の跡には現在、個人宅が2軒並んでいる。両方3階建て。狭い路地は変わらず、長屋だったところが震災後に業者が買い取り、このような住宅となった。「後から移って来たから過去の事はわからない」と現在の住民。

東灘区甲南町にある神徳中朗さん(工・3年)が亡くなった玉谷荘は、5階建ての家族向けマンションになっている。このマンションは97年1月頃から建設が始まった。震災当時は築30、40年の家屋が密集していたという周辺も、新しい家が建ち、その面影はな



更地からマンションになった玉谷荘跡

娘と時間を共有する場 ニュー六甲ビル(営・2年)の3人。96年から駐車場に。傍らには上野さんの父、政治家志乃さん(発達・2年)と志乃さんが作った小さな記念碑、通称「箱」がある。政治家志乃さんは、毎月17日午後「箱」を訪れ、志乃さんに声をかける。一月に一度は娘と共有する時間があった。10年経ったことな

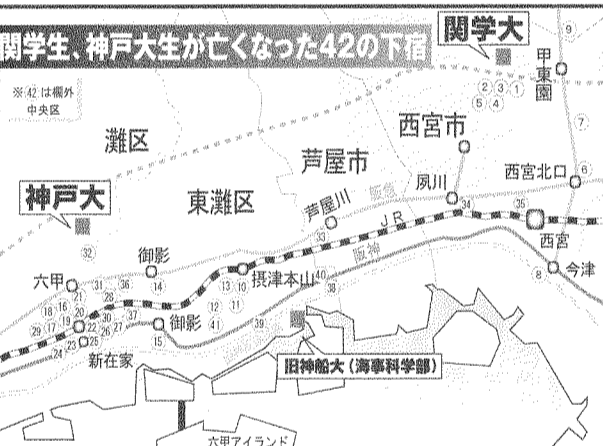
高橋幹弥さん(理・2年)が被災したサニーハイム跡には96年に別名のマンションが建った。サニーハイムは隣の銭湯の煙突が倒れて倒壊。銭湯跡は現在更地のまま。サニーハイム跡の銭湯跡は更地のまま、サニーハイム跡

東神荘(灘区神ノ木通)傳建鴻さん(工学部留学生)が被災した東神荘跡は5、6年前から工務店となった。97年当時は瓦礫を撤去後、手をつけていない状態だった。近所でクリーニング屋がある」と話した。

岩田文化跡が一層際立つ。家主の岩田陽二郎さんは97年当時「アパートを建てる予定ですが、なかなか決まらないうえ、今、岩田さんの妻は「いろいろ考えてしまっただけ」と理由を話してくれた。

当時の様子を教えてくれた近所に住む池田眞佐子さんは毎年1月17日の朝にサニーハイム跡を手を合わせる。「生きていることを背負っていることに慣れていくでしょう。」

営む木戸百合子さんによると「震災前は多かった学生も今はほとんどおらず、駐車場が増えているという。震災から10年を迎えることについて木戸さんは「またまた復興はしてない」と感じています。通りが東はまたいっぱい空き地がある」と話した。



関学と神戸大(海軍科学部除く)の被災下宿

被災下宿(亡くなった人)	住所	現状
関西学院大		
1. 奥田荘(2)	西宮市上ヶ原四番町 2-8	駐車場
2. 若葉荘(4)	西宮市上ヶ原五番町 1-53	駐車場
3. 赤穂荘(1)	西宮市上ヶ原五番町 2-42	大家さんの住宅
4. 奥井荘(2)	西宮市上ヶ原七番町 3-31	個人宅
5. 市ヶ谷荘(1)	西宮市上ヶ原九番町 2-29	一般アパート
6. 清和荘(1)	西宮市高木西町 11-13	大家さんの住宅
7. 門前文化(1)	西宮市門前町 10-12	駐車場と住宅
8. いこい荘(1)	西宮市津門町 11-11	一般マンション
9. 甲山荘(1)	宝塚市仁川北 2-12-9	一般マンション
神戸大		
10. イーストハイム(1)	神戸市東灘区本山中町 4-9-17	1Rマンション
11. 吉田荘(1)	神戸市東灘区本山南町 7-5-17	駐車場
12. 玉谷荘(1)	神戸市東灘区甲南町 4-1-12	マンション
13. 浜田文化(1)	神戸市東灘区田中町 4-4-22	個人宅
14. 都家マンション(2)	神戸市東灘区御影御都家字大蔵 2-7	社宅マンション
15. サニーハイム(1)	神戸市東灘区住吉南町 5-8-24	1Rマンション
16. 吉岡文化(1)	神戸市灘区神前町 1-1-25	一般マンション
17. 安田文化住宅(1)	神戸市灘区将軍通 1-3	個人宅
18. 川原アパート(1)	神戸市灘区篠原南町 1-6-12	学生アパート
19. 安田文化(1)	神戸市灘区六甲町 5-7-18	受血マンション
20. 西尾荘(3)	神戸市灘区六甲町 2-4-5	区画整理→住宅
21. 杉本文化(1)	神戸市灘区六甲町 2-6-19	駐車場
22. 安田文化(4)	神戸市灘区備後町 2-3	未整地の更地
23. ニュー六甲ビル(3)	神戸市灘区琵琶町 3-7-6	駐車場
24. 清重文化住宅(1)	神戸市灘区下河原通 1-3-12	駐車場
25. 盛華園アパート(1)	神戸市灘区友田町 1-1-10	学生マンション
26. 村上文化住宅(1)	神戸市灘区友田町 4-1-19	マンション
27. 岩木文化(1)	神戸市灘区記田町 5-5-4	駐車場
28. 立花荘(1)	神戸市灘区高徳町 1-4-8	駐車場
29. 東神荘(1)	神戸市灘区神ノ木通 3-4-22	工務店
30. 高木荘(1)	神戸市灘区徳井町 4-3-7	マンション
31. 浜吉文化(2)	神戸市灘区中郷町 3-1-22~24	学生マンション
32. 大日荘(1)	神戸市灘区桜ヶ丘町 6-10	個人宅
33. 石本文化(1)	芦屋市三条南町 3-7	個人宅
34. マンションN(1)	西宮市安井町 5-20	複数個人宅
35. 増田荘(1)	西宮市中殿町 6-30	個人宅
36. 下宿・井上(1)	神戸市東灘区御影町西平野字平野 8	駐車場
37. 下宿・上原(1)	神戸市東灘区御影町石町 4-19-12	複数個人宅

※04年11・12月に調査。UNN調べ。神戸大海軍科学部→【2面】

未掲載分は、各ローカル面に掲載

地域参加する学生も

静岡、和歌山、神戸：

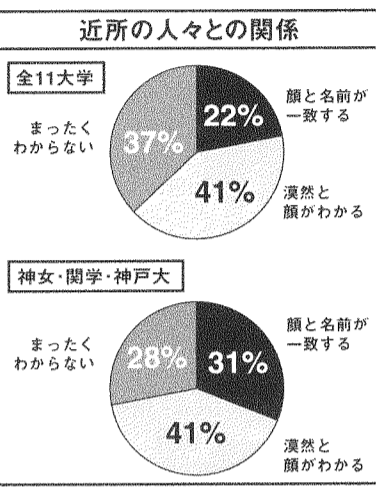
地域からの強い期待。しかし多くの学生は「地域」の一員なのに「地域」とのつながりは薄い。一方、地域の側も高齢化が進む中で災害時に学生などの若い世代に期待する声も多い。学生や大学が地域との関わりをもち、地域防災に加わることで災害が起こった時により対応しやすくなるのではないだろうか。

震災で亡くなった学生の9割以上が下宿生だ。救出に駆けつけたのは友人、両親、近隣住民だった。彼らの多くは「もう少し早く救出できれば」と悔やむ。特に下宿生は建物の耐震性の問題もあるが、情報、交流不足のために助からなかった例もあるのではないだろうか。

「生存者の95%が近所の人助け出した」というデータもある。しかし、学生は「地域」の一員なのに「地域」とのつながりは薄い。一方、地域の側も高齢化が進む中で災害時に学生などの若い世代に期待する声も多い。学生や大学が地域との関わりをもち、地域防災に加わることで災害が起こった時により対応しやすくなるのではないだろうか。

学生が地域防災にいかに関わるか？

低い防災意識、少ない地域参加 「近所の安否確認できる」約1割



「近所と面識がある」、2割

11大学421人に意識調査

現在、学生の防災意識は「低い」といわれている。調査によると、兵庫県の11大学に421人（兵庫県の3大学138人）を対象に実施したアンケートから、その実態を見ていく。

●日頃心掛けている防災対策は？
全体での最多は「特に何も心掛けていない」の188件。学生間での防災意識は低いと言える。「最近地震が多いので何か対策をした方がよいと思う」（奈女大）と、昨年起こった地震や台風によって防災意識を持ち始めたという意見も多く見られたが「実際には実行できていない」という声も多かった。

●地域の方々と関係
「漠然と顔はわかる」「まったくわからない」が合わせて78%と、地域との関係はかなり希薄なようだ。その中で「地域自治会に参加していることがある」と答えたのは約1割にとどまった。

●隣近所の安否確認
大災害が生じた場合、「できる」「できそう」と答えた学生は全体の45%、その反面「できない」「できそうもない」「わからない」が55%に上った。

●火災発生時の初期消火
この項目では「できない」「できそうもない」「わからない」と答えた学生が66%となった。兵庫県の学生も「できる」「できそうもない」「わからない」が38%、「できそうもない」「わからない」が30%に上った。

「地域を知っていない」といざという時にパニックになることを実感。今後継続していく予定だ。「これをきっかけに大学と地域の関係を深めたい」と、関係が深まれば、訓練には学生20人あまりが参加。自治会長と代表の清水麻衣さん(2年)が「地域への溶け込みの難しさを」と、関西の大学でも動きはあつた。立命館が設立した「南海地震学生防災ネットワーク」は04年の1月17日、被災した明石天文科学館の巨大時計のモニタリング

「10年をきっかけに」被災した明石天文科学館の巨大時計のモニタリング



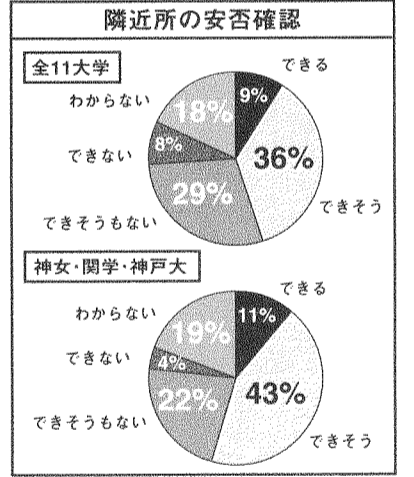
神院大震災シンポを企画した中川書記さん

「若者参加でまち作りを
防災意識の継続不可欠」

意識調査では学生の地域とのつながりは薄いことが分かった。しかし、特に大学周辺で高齢化の進む地区の学生への期待は大きい。震災10年後の課題を「真のコミュニティづくり」とした数田さん(六甲道駅北地区まちづくり協議会)も「若い世代の参加」が目標だ。地域での防災意識は高い。区画整理で道路幅を拡張、公園の地下には防火水槽を設置。今年から灘区全体の小学4年生に対し、集団防災訓練もはじめた。しかし、まちの高齢化が進む一方、乱立する1R

「若者参加でまち作りを
防災意識の継続不可欠」

意識調査では学生の地域とのつながりは薄いことが分かった。しかし、特に大学周辺で高齢化の進む地区の学生への期待は大きい。震災10年後の課題を「真のコミュニティづくり」とした数田さん(六甲道駅北地区まちづくり協議会)も「若い世代の参加」が目標だ。地域での防災意識は高い。区画整理で道路幅を拡張、公園の地下には防火水槽を設置。今年から灘区全体の小学4年生に対し、集団防災訓練もはじめた。しかし、まちの高齢化が進む一方、乱立する1R



編集後記

「当時の記憶も辛い。しかしそれがきっかけとなる出会いもある。では震災は薄らぐ。実際の、興味をなからまちづくりで、ボランティアで新たな動きをする人々もいる。彼らの顔は、思い出さずにはいられない。取材の中で出会えたその明るさは、一種の救いになった。「前向きな震災像」もある。それを感じて頂ければうれしい。

震災の捉え方の明確な処方箋はない、今回の震災は、広い路地。新しい家。整然としたまち並み。未舗装の旧道や更地ももう数年たつたのかそれはわからない。影は消え行く。しかし、その下にはそれ忘れ得ぬ記憶がある。「忘れ得ぬ」ではない。住民は異口同音にそう話す。そんな場に込められた想いを紡いだ。

「地震がなければ。震災が影響を与えたものは重い」

【震災取材班】

自動認識、本日認識。

「自動認識技術」とは、ICタグやバーコード、2次元コードなどを利用してモノや情報の流れを管理する技術のことです。私たちサトーは、自動認識技術のリーディングカンパニーです。

株式会社 サトー 代表取締役: 藤田東久夫 東証一部上場

※採用情報は右記インターネットにアクセスしてください。URL <http://www.sato.co.jp> E-mail saiyo@sato.co.jp

携帯電話で閲覧可能です Petit lapin PT200e TASSHA SR400 シリーズ

www.sato.co.jp

神戸大

震災から10年

特集 ●震災を振り返る ●大学関係者の思い

阪神・淡路大震災から10年。被災地の中心にある神戸大でも当時の状況を知る人は少なくなり、学生から震災の記憶が徐々に薄れ始めている。たとえ震災の経験がなくても、神戸大に関わる人として震災を知る必要があるのではないだろうか。

95年1月17日午前5時46分。激震が阪神一帯を襲った。灘区では体が突き上げられるほどの強烈な揺れに続き、横揺れが40秒ほど続いた。

神戸大が比較的多く住む六甲道、御影、住吉の地域は特に大きな被害を受けた。木造アパートはほとんどが全壊し、電気、ガス、水道など一切のライフラインが断られた。

神戸大の惨状

震災による神戸大の犠牲者は、学生44人、教職員3人、名誉教授2人、生協職員2人(いずれも旧神戸商船大を含む)。キャンパス内の建物に

10面へ

れた入試は阪大や岡山大のキャンパスで実施され、入学式や卒業式の会場に六甲台講堂を教室などが代用された。課外活動関連の行事では、夏の近畿国立大体育大会が中止となった。野球の神戸戦や六甲祭は例年通り実施された。

神戸大での10年間

国際文化学部 天野郡寿教授

天野郡寿・国際文化学部教授は震災当時から神戸大で教員として働いている。

震災当時の状況

震災当時の状況について、「気がつくまで学生は自然にボランティアをしていて、原付で食料を運んでいたり救出活動をしてたり。神戸大の近くにあった。大目には神戸大生がすごく頑張っていた」という近所

に住民の話も聞いた。当時、学生が家に泊まりに来たり、学生に食料をもらったりもした。みんなできることをできる限りして助けあっていた。もし、今同様な地震が起こったら今の学生も同じ様に動いてくれると思う」と現在の学生についても同様の思いをよせる。「でも、地震は絶対に起こらない方がよい」と強い思いを述べた。

1・17の意味

「震災当時、つらいこともたくさんあったが人の優しさを実感し、人間は助け合えるのだと感じた。私にとっての1月17日は優しかった人や街を思い出させてくれる日だと思う」と聞き手・杉浦加奈



阪神・淡路大震災では6400人以上の被災者が犠牲になった。激震地となった灘区では木造住宅のほとんどが倒壊した。(95年1月17日・被災地で撮影=震災取材班)

地域の一員として

総合ボランティアセンター 初代代表 稲村和美さん

阪神・淡路大震災では全国からたくさんの方が被災地に駆けつけ「ボランティア元年」と言われた。私も震災で初めてボランティア活動なるものを経験した一人で、避難所になっていた東灘区の小学校に泊り込んで活動した。

避難所の運営は、そこに暮らすことになった人々が生活空間を作り上げていく

作業だった。避難住民の代表の方、学校の先生、そしてボランティアで毎晩ミーティングをした。ルールができ、仕組みができ、問題が生じたら改善する。立場を超えて多くの人が能動的に、まさにボランティアに課題解決に取り組んでいくというこの手応えが私を夢中にさせた。それは、震災前にボランティアに対して抱いていた「誰かを助けてあげる」というイメージとは全く違う、ダイナミックな学びの連続だった。

春休みになると続々と活動希望の連絡が入り、ボランティアのコーディネート

が仕事になった。一人でも多くの人に活動機会を提供したいという思いから、自立を妨げないよう避難所の外にも活動を拡大した。介助者を捜していた脳性マヒの男性、情報が伝わらず不安を抱えている高齢者など、さまざまな出会いの中から、震災で見た問題の多くが、実は震災の前から地域にある問題だということも実感した。

避難所が解消し近づく頃には、なかなかかまっていた活動の拠点を維持し、この震災で生じた「ボランティア活動機会」の提供を

して同じ思いの神戸大生が集まって企画を練り、95年5月、「神戸大学総合ボランティアセンター」が設立された。震災限定ではないセンター、学生に活動機会を提供し、学びあうセンターとして、総ボラも10年目を迎える。

「わたし」が「あなた」を助けるのではなく、地域の問題を「私たち」の問題として捉えていく視野、そしてその「私たち」の一員としてボランティアに活動してみようという手応えを今後とも引き継いでいきたい。

稲村和美(当時・法3年) 現在、兵庫県議会議員

震災から10年 被災下宿の現在

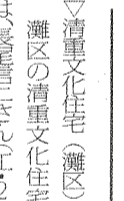
震災から10年が過ぎ、下宿街は大きく姿を変えた。海事科学部を除き、駐車場へ変わった跡地は18件中8件以上。[2・3面より続く]

▽イーストハイム(東灘区) 森添さん(法・4年)が被災したイーストハイムは震災後、更地になっていた。その土地を今の大家が購入した。跡地にはワイレックス本山」という階建てのマンションが建っている。



更地には新しいマンションが

▽清重文化住宅(灘区) 灘区の清重文化住宅で、長尾信三さん(法・2年)が被災した。同住宅は全壊し、震災後は駐車場として利用されてきた。現在に至るまで周辺の区画整備は行われておらず、今もその土地は駐車場のままである。



清重文化住宅跡の駐車場

▽村上文化住宅(灘区) 二宮健太郎さん(法・2年)が被災した村上文化住宅跡は灘区にある。震災の後しばらくは駐車場だったが、2年ほど前に新たにマンションが建てられた。同じ通りには新しいマンションが建ち並び、震災以前からの家屋が並ぶ向かいの通りとは対照的だった。



駐車場からマンションに変化

▽石本文化住宅(芦屋市) 芦屋市三条南町の石本文化住宅では廣瀬由香さん(法・4年)が被災した。石本文化のあった場所には現在、大家の親族の家が建っている。竣工は97年8月。



芦屋市の石本文化住宅跡

▽岩本文化住宅(灘区) 灘区記田町の岩本文化住宅では、戸梶道夫さん(営・2年)が被災した。同住宅のあった土地は閑静な住宅街の一角に位置する。97年の取材当時、管理人の岩本正雄さんの妻富美代さんは、跡地は更地であるが、今回の取材時には駐車場に変わっていた。跡地の周辺は新しい住宅と震災以前からの建物が混在して



跡地は個人宅と柔道教室に

▽井上純一(東灘区) 阪急御影駅から徒歩15分、東灘区西平野字では今英人さん(自然科学研究科博士前期課程・1年)が被災した。跡地は閑静な住宅街にある。現在、井上純一さんの土地の一部が駐車場などに利用されている。



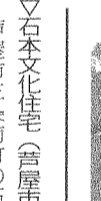
跡地の一部は駐車場に

▽吉田荘(東灘区) 沈一春さん(理学部理学研究科)が住んでいた吉田荘跡は97年の取材時と同様、駐車場のままだった。周囲はマンションやアパートの多い住宅街だ。



駐車場のままの吉田荘跡

▽部家マンション(東灘区) 東灘区の部家マンションの跡地には、現在同じ名前マンションが建ち、一部は(株)武蔵野神戸工場の社員・パート寮になっている。竣工は00年2月。97年当時更地で、建て替えの工事標識があった。



跡地にはマンションが建つ

▽吉岡文化(灘区) 後藤大輔さん(法・2年)が住んでいた吉岡文化は木造階建てで地震で2階が1階を押しつぶして倒壊した。95年当時、吉岡文化は全壊し、瓦礫が道路まで積み出た状態だったという。97年はマンションの建設が始まったばかりの状態だったが現在は完成し、4階建ての家族向けマンションになっている。そのため学生は住んでいない。



吉岡文化跡に4階建てマンション

▽増田荘(西宮市) 西宮市中殿町で曹センさん(農学研究科)が被災した増田荘。増田荘では曹さんを営む2人が亡くなった。8年前は更地だったが現在は、当時大家だった増田さん家族の家が建つ。



増田荘跡は個人宅に

▽齊木荘(灘区) 灘区の齊木荘では、母志姫さん(自然科学研究科博士課程・1年)が被災した。木造階建ての齊木荘は完全倒壊し、隣接する道路を塞いだ。跡地には97年の取材時と同様、フロアラル六甲というマンションが建っている。周囲は新築の家が比較的多く建ち並ぶ住宅街になっている。



跡地には複数の個人宅が建つ

▽浜田文化(東灘区) 工藤純さん(法・院1年)が住んでいた浜田文化の跡地は、97年の取材時と同様、大家の浜田さんの自宅のまま。現在も下宿は営んでいない。浜田さんは「工藤さんの遺族と交流はありますが、震災事業があるときは神戸に来られて聞いています」と話す。浜田文化では工藤さんの他に会社員1人も住んでいた。



跡地にはマンションが建つ

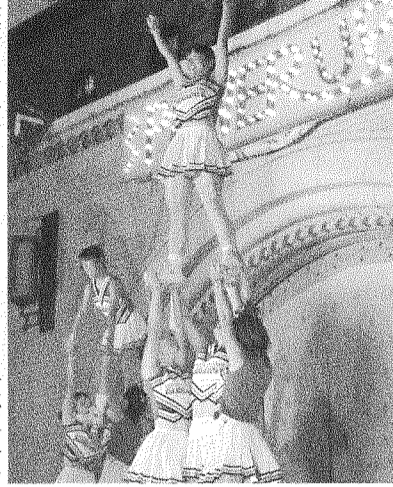
震災を通じて

団長が震災で亡くなった応援団。震災をきっかけに活動を始めた学生ボランティア。あれから10年が過ぎた今、彼らは何を思っているのだろうか。応援団総部や学生震災救援隊に手記を依頼。総合ボランティアセンターを取り、それぞれの思いをまとめた。

応援団総部

第4代団長 中田安俊

阪神大震災を被災(被災といっても奈良県民の私は、本棚から落ちてきた本に頭をぶつけた程度だが)した当時、私は小学5年生で、テレビで見える風景は現実には信じられないものでなく、同級生がやたら募金をしたことを自慢げに話していることが偽善たらしく不快だった記憶が強い。それから何の縁があったのか、神戸大学に入学することになり、応援団に入り、親を説得して、六甲の街に住むことになった。暮らした始めた当時、六甲の街は私から見れば震災の傷跡は感じられず、ただ坂の多い街でしかなかった。しかし、生活と人生勉強のため先輩から紹介された居酒屋で働き始めた時、そこで始めて震災の傷跡を見た気がした。店主や客の方が震災



母校の神戸大学をより良くしたいという思いが、今の応援団を支えている。(04年11月14日・後夜祭で撮影) 中島(志)

態に等するまでの歴史、そして存在しているこの街の歴史を学ばねばならないだろう。『神戸大学生が神戸大生として』という言葉の中には震災と向きあうという意味も含まれているのではないだろうか。そのような思いを胸に神戸大学としてこの町に向けて「フレイヤー神戸!」

震災救援隊

代表 義井理

救援隊は現在、2つの活動を中心に活動を展開しています。1つは、地域問題に取り組み、基本となる知識を身につけるための活動。もう1つは、地域型仮設住宅での取り組みから派生した先進的な高齢者ケアのあり方を追求する活動です。



学生震災救援隊では年に一度、地域で活動する人を招いて連続講演会が開かれる。(写真=提供写真)

総ボラ

95年5月10日。当時の神戸大生4人が中心になって神戸大総合ボランティアセンター(総ボラ)が設立された。

バイトやサークル活動とは一味違う、ボランティアならではの体験を多くの人に伝えたいという局員思いは昔も今も変わらない。昨年は台風や地震などの災害が多発した。総ボラは学内の「学生震災救援隊」とともに、「神戸大学水書救援ネット」(じゅうたん) (後に「災害救援ネット」に改称) を立ち上げた。メンバーは、新潟・福井の集中豪雨や台風23号による水害の際、兵庫県下の民家での泥出し、片付け等のボランティアを行った。新潟県中越地震では避難所

阪神・淡路大震災は何であったのだろうか

文学部 岩崎信彦教授

95年1月17日に兵庫県南部地震が発生してから10年がたった。町並みはきれいになり、被災の痕跡は見つけにくくなっていく。しかし、神戸大学と読売新聞社の共同調査によると、「震災を乗り越えた」と答えた人は55%、「乗り越えなかった」と答えた人は45%という結果が出ている。全体として乗り越えたという人が13%であり、全体として乗り越えなかったという人が87%とある。これは、被災地を「乗り越えた」と答えた人が46%、家族に大けが・病気をした人が13%とある。



1995年という年は、バブル経済が崩壊したあと、日本社会が進む道を見失い、精神的混乱が「オウム真理教」事件となった。このようにメディアが大きく取り上げられるようになった。児童館での子どもたちの遊び相手といった身近なところまで、メンバーはボランティアについて何を考えるべきかという問いかけから活動していった。

総ボラも今年で創立10周年。「設立当時から現在までの多くのOB、OGの声を聴きたい」という思いが、被災者支援の

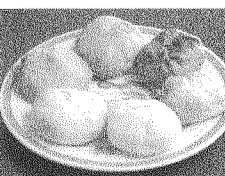
編集後記

震災が与えた傷が癒えることはない。全体的取材を通じて思ったこと。身近な人を失った人にとってこの10年間はどれほどつらいものだったのだろうか。私たちが記事に少しでも多くの人に興味を持ってもらえるなら、編集者としてこれ以上の喜びはない。

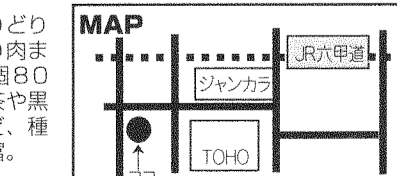
中国料理 青虎



↑上定食(980円)。からあげ、酢豚、野菜炒めなどが一つのお皿に。ボリューム満点。香ばしい香りが食欲をそそる。



←色とりどりの手作り肉まんは1個80円。抹茶や黒ごまなど、種類は豊富。



- 塩ラーメン ¥650
- みそラーメン ¥650
- ラーメン定食 ¥650
- エビ定食 ¥780
- 春巻定食 ¥780
- イカ天定食 ¥780
- カラアゲ定食 ¥780
- 酢ブタ定食 ¥780
- 上定食 ¥980
- シュウマイ6個 ¥300
- 肉まん1個 ¥80
- 餃子8個 ¥300

営業時間 11:30~14:30
16:30~22:00
不定休
TEL 078-854-0485

NEWS NET 持参のスペシャルプライス!! ケア用品も全品半額!!

4/30まで 補償期間はすべて税込が保証となります

買った分だけさらにお得 最大15%ポイント還元

中央コンタクト三宮店で初めてコンタクトレンズをご購入の方のみ

コンタクトレンズ ¥1,000引

※他の割引券との併用不可。 ※本券使用はお1人様1枚限り。

2WEEK 1DAY Medalist

¥4,100を ¥1,690 オープン価格

¥2,080

※上記メタリストの価格は三宮店限定となります。 元町店は1筒¥1,990となります。

メニコン 半額の半額!

メニコンソフト ¥5,700 (¥23,100)

メニコンZ ¥7,600 (¥30,450)

※先着にもれた方も、ソフトS1枚¥9,240 メニコンZ1枚¥11,550

乱視用・遠近両用 取扱中!!

元町店078-334-7701 神戸市中央区元町2-8-14 (MORTENIAC) 7F (1F) 22F

三宮店078-327-0720

ペネト

年中無休 営業時間/11:00~20:00 全国64店舗でサポート!

中央コンタクト

※コンタクトレンズは医療用器具です。眼科医の処方によりお求め下さい。眼科診察の際には健康保険証が必要となります。

レンズをご購入の方に ケア用品プレゼント クーポン券

三宮店のみ有効 (H17年4月30日迄有効)